

人がつながる「地域と共にある学校づくり」研修講座

《日 時》 平成 29 年 7 月 31 日（月）13:15～16:00
 《会 場》 奈良県産業会館
 《参加者》 県内公立幼稚園・認定こども園・小学校・中学校及び県立学校の教職員、地域コーディネーター、団体・企業等 計 305 名

《内 容》

◆「地域と共にある学校づくり」について

- ・ これからの世の中を生きる子どもたちのために、社会総掛かりでの対応の必要性。
- ・ 「地域の支援なくして連携なし、連携なくして協働なし。」

◆講演「地域・学校協働活動の実現に向けて」

国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田まなみ

- ・ 変化の激しい社会を生きていく子どもたちには、コミュニケーション力やあきらめない気持ち、丈夫な体、判断力など、様々な資質や能力を身につけさせていかなければいけないと思うが、教職員には時間がない。
- ・ 主体的な学びを引き出す学校教育の実現に向けて、教職員の業務改善を見直すとともに、地域ボランティアやスクールカウンセラーなどの専門スタッフを含めて、「チーム学校」として取り組むことが重要。
- ・ 「地域と共にある学校づくり」を推進する方法として学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）があるが、協議会のメンバーは校長が選び、共有ビジョン（将来像）を設定し、一緒に汗をかく事業を組んでいくと、協議会が形骸化しない。



◆ブース展示「ならの教育応援隊」（H29新規事業）

団体や企業等による学校や地域における教育活動を支援する「ならの教育応援隊」のメニューを紹介するブース展示を行いました。団体・企業等が教育分野における社会貢献事業の一環として行う出前授業や見学等の活動を各ブースで紹介し、多くの学校関係者、地域の方とのつながりをつくっていました。



- ・ 地元企業：佐藤薬品工業、井上天極堂、三光丸
- ・ 行政分野：JICA関西、JAF奈良支部、奈良県測量設計業協会、近畿運輸局、国立曽爾青少年自然の家、奈良県社会福祉協議会、うだ・アニマルパーク、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、奈良県金融広報委員会、奈良県消費生活センター、奈良県租税教育推進連絡協議会、奈良県立野外活動センター
- ・ 通 信：NTTドコモ、KDDI、近畿総合通信局、LINE
- ・ マスコミ：毎日新聞社、読売新聞大阪本社
- ・ 鉄 道：近畿日本鉄道、近畿日本ツーリスト
- ・ 食 品：ならコープ、奈良ヤクルト販売、日本マクドナルドフランチャイジー
- ・ エネルギー：大阪ガス、関西電力
- ・ そ の 他：奈良弁護士会、総合警備保障奈良支社、奈良県立大学

以上、31団体79名の方の協力

《参加者の感想》

- ◆ 子どもたちにどんな力をつけたいのか、学校と地域がビジョンを共有することなど、明確にすべきところはしておかないと形骸化と負担感が先行するものになってしまうと改めて思いました。（講演から）
- ◆ 本校はコーディネーターがおり、今年は特に協力しながら進められています。コミュニティ協議会が形骸化しないように、子どもたちのために生かされるように頑張ろうと思えました。（講演から）
- ◆ 多くの学びの機会が与えられていることが分かり、企画の視野が広がりました。（ブース展示から）
- ◆ 魅力的な団体がたくさんありました。奈良県の特産品を紹介してくれる団体を、今後、呼んでほしいと思います。（ブース展示から）

